

〔令和7年度研究成果トピックス〕

農業関係試験場が開発した新品种・新技術を紹介

長野県内の農業・畜産関係の5つの試験場では、県内農業者の皆様にご活用いただくため、新品种・新技術を開発しています。令和7年度の研究成果の中から、主なもの4つを紹介します。詳しい情報は、農業関係試験場のホームページ(<https://www.agries-nagano.jp/research>)に掲載の「農業技術レーダー第33集」をご覧ください。



上の二次元コードからもアクセスできます

【新品种】大玉・高糖度の日本なし「天空のしずく」の育成

気候変動下でも安定的に良質な果実が生産できる日本なしの新品种を開発しました。



品種特性

- 9月上中旬に収穫
- 病気に強く、無袋栽培が可能 (令和7年7月品種登録)

従来品種に比べ

- 長果枝のえき芽にも花が着生し、凍霜害被害が軽減、安定生産可能
- 着果位置による品質差が少ない

【新技術】トマト夏秋どり土耕栽培における強勢台木品種の利用

夏秋どりトマトの盛夏期における草勢低下を抑制し、収穫量の向上につながる栽培技術を開発しました。



盛夏期の草勢低下

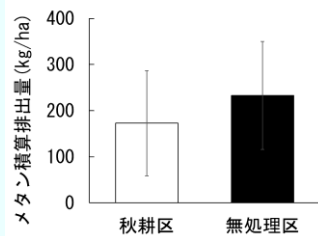


強勢台木利用のトマト草姿

- 収穫果数や果重が増え、収量が向上
- 草勢が維持され、減肥も可能
- 青枯病に弱いため、利用は本病未発生ほ場に限る

【新技術】水田から発生するメタンの秋耕による削減技術

秋耕による、メタンの排出抑制効果と水稻の収量・品質への影響を評価しました。



年間メタン発生量の比較



秋耕作業の様子

- 秋耕を実施すると、メタン排出量は3割程度減少(5年間平均)
- 生育の促進や収量が増加する傾向
- ※秋耕：稲わら分解促進等のため、秋に耕起を行う

【新技術】繁殖豚の快適性に配慮した飼養管理技術

フリーアクセスストールの運用方法を検証し、生産性と快適性を評価しました。



自由に行き来

フリーアクセスストールの飼養管理

- 離乳から交配後1か月は個別、その後フリーアクセス(自由に行き来)で飼養管理した場合
- 6回目の出産まで良好な生産成績
 - ストレス指標値が低い



わたしの、私たちの長野県。

150th Anniversary 1876-2026

(問合せ先)
 担当 長野県農業試験場
 研究企画・知的財産部
 栗原、佐藤
 TEL 026-246-2412(直通)
 FAX 026-251-2357
 E-mail
 nogyoshiken@pref.nagano.lg.jp

(問合せ先)
 担当 農政部農業技術課研究普及係
 川村、榎本
 TEL 026-235-7220(直通)
 026-232-0111(内線3064)
 FAX 026-235-8392
 E-mail nogi@pref.nagano.lg.jp